

～ All for one, One for all. ～



光の家

THE LIGHT HOUSE FOR THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設
東京光の家会報

— 231 号 —

2025 年 5 月 13 日 発行

イエスが道をとおつておられるとき、生まれつきの盲人を見られた。弟子たちはイエスに尋ねて言った、「先生、この人が生まれつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」。イエスは答へられた、「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に見えるためである」。

ヨハネによる福音書
第九章 一節～三節



待ちに待った桜の開花に喜ぶ利用者 (新生園)

巻頭言

桜花の盛りも過ぎて、薫風緑樹をわたる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。光の家就労ホームのワークショップ・センター竣工式を目前に控え、光の家の利用者職員一同、胸高まり心躍らせる日々を送っております。次号で詳しい内容をお伝えできるものと思っております。

今号では、光の家栄光園中河原園長より開設五十周年を振り返り感謝の気持ちを綴られたご寄稿をいただきました。これまでの栄光園の歴史や関わってきた人々の思い、記念行事や記念式典など盛り沢山の内容となっております。現在、栄光園新作業棟の移転計画を大きく前進させる段階に差し掛かりつつありますが、次の五十年も従来通り皆様のお力添えをいただきたくお願い申し上げます。

広報活動委員

感謝の五十周年「光の家栄光園」開設から五十年を迎える
 ～すべてのわがには時がある。～
 働く姿に神の栄光が表れる。～

光の家栄光園 園長 中河原 達也



れた様々な方々にお礼を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。ありがとうございました。

栄光園が開設に至った経緯は、光の家の最初の事業であった救護施設の利用者が増える中で、世代間、障害程度、作業能力などの違いが広がり、ニーズの違いや支援内容の変化も必要となりました。そのような中、田中亮

治前理事長が昭和四十三年、香港の工場を見学し、工作機器の操作を恐がりながらも訓練を受ける視覚障害者の姿に感銘し、東京光の家でも「働く事」を中心とする施設を作ろうと決意したのです。そしてそこには、利用者のニーズの広がりも大きく影響している事が、栄光園二代目園長の故中村繁氏が書かれた「一職員の手記」に記されています。救護施設

昭和四十九年七月、東京光の家の三番目の事業として開設した光の家栄光園（当時「旭が丘更生園」）が、令和六年七月で開設から五十周年を迎えました。先達の職員・利用者の方々の熱意と並々ならぬ努力、そして関係する様々な方々の愛に溢れた支えに恵まれて、五十年という節目の年を迎えることが出来ました。今も、「仕事を通してその喜びと尊さを知る」ことが大切な目的として受け継がれていることは、感謝の極みであります。関係さ

設を利用し「衣食住」が保障され、ほぼ何の心配もないほどに満たされたとしても、人間はそれで満足するものではありません。生きがいとは何か、社会につながりたい、人の役に立ちたい、働きたい、賃金も得たいなど、それは正に人間として存在する意味や価値とは何かという利用者の思いがあったのです。中村元園長は同じ視覚障害者と言う立場で、暇つぶしや気晴らし程度の仕事ではなく、視覚障害者の適職として選んでいける意味のある仕事を目指したい。視覚障害を有していても、大きな能力、可能性を秘めているし、出来る事は沢山あるという大きな志がありました。こうした歴史を振り返り学び、五十周年の節目に合わせ、①記念旅行を実施（二泊旅行く北海道・岐阜県。日帰り旅行く伊豆）。②栄光園開設当時を記した、中村繁二代目元園長著「一職員の手記」の再版と「存在讃歌」という朗読劇の再演（クリスマス）。③点字出版事業を引き継いできた仕事

として、光の家百周年記念誌の点字版発行。④新たな仕事作りを継続してきた歴史に絡め記念製品の製作。そして、⑤関係者を招いての記念式典（記念ビデオ・記念誌製作・会食等）を実施し、皆様と共に感謝とお祝いの時を持つ事が出来ました。

栄光園の五十年の歩みを振り返った時、その大きな特徴は、生き生きと一生懸命に働くこと。その事が神様の栄光を現す姿であり、神様の意志である。それこそが一人ひとりの大きな存在価値であるという事ではないかと思えます。伝道の書第三章一―一節にある「すべてのわがには時がある」、ヨハネによる福音書第九章三節には「神のみわざが彼の上に現れるためである」とあります。五〇年間の栄光園、そして今の私たちに与えられた時、与えられた役割がそれぞれにあります。これからの担う私たちは、伝統を背負いながら新たな一歩を踏み出し、次の歴史を積み重ねられるよう努めて行きたいと思えます。

出た様々な方々にお礼を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。ありがとうございました。

〈栄光園開設 50 周年〉

1. 50 周年記念2泊旅行



令和 6 年 6 月 17 日 (月) ~ 19 日 (水)
北海道帯広に行ってきました!



令和 6 年 10 月 17 日 (木) ~ 19 日 (土)
岐阜の飛騨に行ってきました!

2. 書籍作成



二代目 中村元 栄光園施設長
による手記



クリスマス行事での朗読劇で
使われた「存在讃歌」の台本



光の家 100 周年記念誌の点字版が完
成し贈呈しました

3. 記念品・ビデオ作成



50 周年記念としてグローリーノートを作成しました!



50 周年記念ビデオを作成しました!

4. 50 周年記念式典



50 周年記念式典
パンフレット



利用者による聖書朗読



50 周年記念品の贈呈



50 周年記念式典の会食の様子

令和六年度 締めくくりの会

令和七年三月十八日(火)～
二十六日(水)
会場：東京光の家講堂

今年度も光の家の各施設において「締めくくりの会」が行われました。

会は式典形式で行われ、第一部では一年間仕事や訓練、生活面で努力された利用者への表彰をし、第二部では皆さんが楽しみにしている会食をし、豪華でおいしい食事をいただく

ことができました。その後はお楽しみ会としてこの日のために一生懸命練習した歌や劇を披露して、最後まで楽しみました。多くの方々の支えによって年度を無事に締めくくることができました、本当にありがとうございました。



新生園「納め会」



神愛園「感謝会」



栄光園「みのりの会」



就労ホーム「結の会」



あいにくの雨でしたが完売しました

当日は雨模様であり、最高気温が朝方の十度で、時間がたつにつれ低くなるという厳しい天候でした。そのためブラインドサッカー体験は中止になりましたが、小学生など近所の子供がちらほら参加しており、昼頃には大人のお客様も増えました。来年こそは晴れることを祈るばかりです。

(自立支援部 支援課 前田良)



寒空の桜まつり

令和七年三月十九日(土)
日野市 旭が丘中央公園



盲人バレーを体験する小学生

旭が丘小学校の四年生が見学に来園しました。最初に石渡理事長より東京光の家の概要があり、その後3グループに分かれて、新生園、栄光園、神愛園の見学を行いました。「目が見えなくても色々な事が出来るんですね」等、実際に見学した事で分かった事も多かったようです。見学後、講堂で光バンドのメンバー三人から歌を披露し、交流のひと時を持つことが出来ました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 10 人々の平等をなくそう

日野市立 旭が丘小学校 見学

令和七年 月 十八日 火



一緒に花を植えました!

今年もかわせみ学級の方たちとの交流ということで滝合小学校に訪問してきました。自己紹介と質問コーナーの後は、花壇で一緒に穴を掘りました。休憩時間にはコマ回しやだるま落としなどむかし遊びをして対決し、楽しめました。また、歌と踊りの発表もしてくださいましたが、そのお返しとして高橋繁さんがピアノで「勇気100%」を演奏し、大好評でした。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 10 人々の平等をなくそう

日野市立 滝合小学校 交流事業

令和七年 二月十日 月



今年も城山かたくりの里の一角をお借りして、神愛園の作業作品の販売をさせていただきました。可憐なかたくりの花を始め、色とりどりの花々や野鳥の声を聴きに多くのお客様が来場され、神愛園の利用者が心を込めて作った作業作品を沢山手にとっていただくことができました。

神愛園作業作品 城山かたくりの里販売

令和七年三月九日(日)、十五日(土)、十六日(日)、二十日(木)、二十二日(土)、二十三日(日)、二十九日(金)～三十日(日)、四月七、日(二十日迄販売実施予定)



石渡理事長による追悼の辞

創立者秋元梅吉が亡くなって半世紀が経ちました。追悼集会を通して、光の家の基本理念でもある「盲人に聖書の福音を」という創立の精神はいつまでも守るべきものであると再認識する事が出来ました。

第五十回 創立者秋元梅吉 追悼集会

令和七年 二月七日(金)

会場：東京光の家講堂

光の家新生園



石原 風香

光の家神愛園



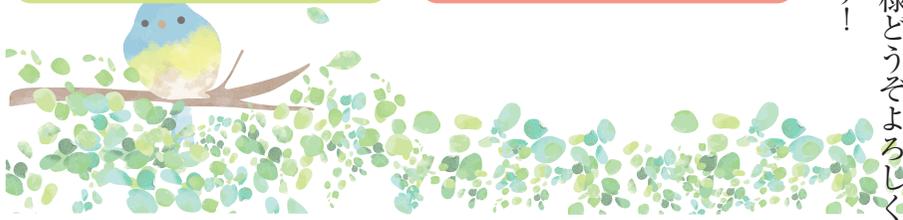
河野 俊英

令和七年度

新任職員紹介



今年 は東京光の家に二名の 新任職員が加わりました。 二名ともこれまでの様々な 経験を生かし、光の家利用 者の皆様のために精一杯力を 尽くして頂きたいと思ひます。 光の家の皆様どうぞよろしく お願いします！



1月26日(日) アールブリュット立川 昭和記念公園

一月から三月に亘り三カ所で演奏をさせて頂きました。イオンモール多摩平の森では毎年行わせて頂いておりまして、地域の皆さんに光バンドの事を知って頂く良い機会となっております。アールブリュット立川では光の家の利用者作品が展示されている横で演奏させて頂きました。



3月15日(土) 春のチャリティー音楽祭 プレミアムライブ 2025 さいたまレイボックホール(大宮)



2月11日(火・祝) イオンモール多摩平の森 市民交流コンサート

光バンド大活躍!
榎本隼人



就労ホーム入所式 (利用者 2 名)



新生園入所式 (利用者 3 名)

今年度は新生園に三名、就労ホームに二名の方が新たに利用開始となりました。おめでとうございます。

令和七年度 入所式
 光の家就労ホーム 令和七年四月一日(火)
 光の新生園 令和七年四月七日(日)
 会場：東京光の家講堂



新たな二十歳ガンバレ!

今年度は新生園より三名、栄光園から二名、就労ホームから三名の合計七名の方が二〇歳を迎えられました。新たに二〇歳となった一人ひとりが式の中で抱負を立派に語ることで、多くの先輩利用者から祝福を受けていました。おめでとうございます。

令和六年度 二十歳を祝う会
 令和七年一月十三日(月)
 会場：東京光の家講堂



波戸副市長、表彰を受けた中村さんとの記念写真

今年の福祉のつどいでは元職員の 中村静江さんが「光の家でのボランティア活動や社協のボランティアセンターの窓口相談員としての活躍」が評価され表彰されました。又、愛のサウンドフェスティバルの収益金から社協に対して多額の寄附を行った事で光の家に對して感謝状が贈られました。

福祉のつどい
 令和七年三月一日(土)
 会場：イオンモール多摩平の森 イオンホール

寄付者名簿
 令和六年十二月十一日
 令和七年四月十日

石川 紀子様	りんご	六四個
広瀬 美幸様	りんご	五二個
山崎 群治様	みかん	一七〇個
河村 正様	玄米	六〇kg
小沼 富士子様	アルコール消毒ハンドジェル	六本
(株)リード・リアルエステート様	トイレットペーパー	二袋
	コーヒーパック	一袋
	インスタントスープ	三箱
	あんこもち	六袋
	コンソメ	二箱
	サラシラップ	二個
	お米	七kg
齋藤 敦子様	足袋	三足
齊藤 眞紀子様	レモン	四三個
高橋 百百子様	しらす	二kg
	梅干し	二五kg
	米	三〇kg
	みかん	六七個
	みかんゼリー	八〇個
	ぼんかん	四三個
	きよみオレンジ	六kg
	絵画・レリーフ等	四八点
平野 礼仁様	お米	二七kg/二八kg
浅石 常勝様	エプロン	三枚
浅見 玲子様	雑巾・エプロン	五〇枚/八枚
井川 寿美江様	乾燥アーサ	一〇パック
仲間 君代様	お米	三〇kg
小園 江春代様	ヤクルト1000糖質off	三五〇本
西都ヤクルト販売株式会社様	かぼす・すだち	八〇個
坂本 武様	もずく	一七kg
古川 裕子様		

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。



光の家SDGS活動
第28回
手さぐりの作品展

令和七年二月十四日(金)～十六日(日)
会場・イオンモール多摩平の森イオンホール



ショートケーキのイチゴを触ってます！

今回で二八回目になった作品展でしたが、多くの来場者と、様々な団体のご協力を賜り、また一つ地域に根差した行事にすることができました。

今年度も「手さぐりの作品展」がイオンモール多摩平の森にて開催されました。今回のテーマは「G I F T」です。「G I F T」は贈り物という意味で広く知られていますが、「恩恵」や「賜物」という意味もあります。今回は神様が人間に与えられた才能を、今年度も「手さぐりの作品展」がイオンモール多摩平の森にて開催されました。その意味に込めて一人ひとりの持っている素質や個性を最大限活かせるように工夫しました。会場中央には大きなクマ、テディベアを籐細工で製作しました。海外では出産などの記念日に送られることが多いテディベアですが、子どもの幸せを願うメッセージが込められており、皆で協力して作りしました。



こちらは都障害者総合美術展で奨励賞を取ったマフラーを巻いたクマです！



今回の共同作品の巨大クマは会場中央に設置されました！

発行 〒一九一〇〇六五
東京都日野市旭が丘一七七一
社会福祉法人 東京光の家
電話 〇四二(五八二)二三四〇
FAX 〇四二(五八二)九五六八



レインボーはゴツゴツしてるなあ～



これはヒマワリのタネかな？